

様式 4

学校番号(小10) 学校名(練馬区立開進第一小学校) 教科名(国語) 「暮らしの中の言葉」

指 導 の 配 慮 点 (授業規律・発問・板書・個別指導・ノート指導等)		評 価 の 観 点				
		関心・意欲・態度を向上させる ための手だて	話す・聞く能力を向上させる ための手だて	書く能力を向上させるための 手だて	読む能力を向上させるための 手だて	知識・理解を向上させるた めの手だて
導 入	・チャイム着席ができるように、繰り返し指導をし、学習規律を確立する。 ・本時の単元名とねらいを板書し、課題をつかませる。 ・ことわざ「 」を書き、意味を考えさせる。 ・知っていることわざを発表させる。 ・児童が発表したことわざは板書し、整理していく。 ・本時の学習の流れをつかませる。	・児童の身近な話題から導入する。 ・確かめる方法を確認し、見通しを持たせるように指示する。 ・知っている言葉でも不確かなものや部分的にしか覚えていないものでも認めるようにする。	・暮らしの中で見聞きしたことがあることわざを発表させるようにする。 ・知っていることわざを進んで発表できるようにする。 ・発表したことわざを聞いて意味を考える	・ノートに単元名とねらいを書くようにする。 ・板書したことわざをノートに書くようにする。	・出されたことわざが読めるようにする。 ・各自声に出して読んだり、みんなで読んだりする。	・暮らしの中で知っていることわざがあるか思い起こさせるようにする。 ・板書したことわざがあることを確かめられるようにする。
展 開	・ことわざが暮らしの中で持つ意味や特徴について考えさせる。 ・出された考えをまとめて板書し、整理していく。 ・ことわざ紹介の準備の進め方を確認してから、調べ学習に入るようにする。 ・時間配分を知らせ、板書しておく。	・どんな場面で見聞きしているか考えさせ、まとまらない言葉であってもとりあげるようにする。 ・みんなで考えをまとめていくようにする。 ・机間指導では、短く言葉かけをして個々の意欲を引き出すようにする。	・友だちが発表した考えを聞きながら、自分の考えをまとめられるようにする。 ・ことわざの意味や特徴に気づくようにする。 ・聞き手を意識して紹介の進め方を考えるようにする。	・気付いたことや自分の考えをメモさせるようにする。 ・みんなでまとめた意味や特徴を書かせるようにする。 ・分かりやすい紹介メモを書かせるようにする。 ・準備の進め方が分からない児童には個別指導をする。	・自分の考えを積極的に発表できるようにする。 ・伝えやすいように紹介メモを読み返すようにする。	・いろいろなことわざから気づいたことをまとめられるようにする。 ・知識を確実なものにするために短文作りへ発展させ、紹介してもよいことを伝える。
ま と め	・ことわざ紹介をするために、小グループの場を設定する。 ・順番に発表し、簡単な自己評価や相互評価をするようにさせる。 ・本時の課題が解決されたか確認する。 ・本時を振り返り、学習日記を書かせる。	・各グループで紹介し合う。 ・友だちの良さを取り入れるようにする。 ・本時の学習を振り返り、次時につなげるようにする。	・暮らしの中に生きることばであることを確認しながら、聞き合うようにする。 ・良い所や新たな発見があれば発表させる。 ・まとめの文や日記を発表させる。	・友だちの良いところをメモしておくようにする。 ・新たに考えたことがあればメモしておくようにする。 ・まとめのノートの書き方を繰り返し指導する。 ・日記が書けない児童には良かった場面を伝えるようにする。	・書いたメモや文は必ず読み返す習慣を付けさせる。	・学習したことを確認する。 ・家庭学習に取り組めるように課題を出し、知識・理解の獲得を図る。

様式 4

学校番号 (小 1 0) 学校名 (練馬区立開進第一小学校) 教科名 (社 会)

指 導 の 配 慮 点 (授業規律・発問・板書・個別指導・ノート指導等)		評 価 の 観 点			
		関心・意欲・態度を向上させるための手だて	思考・判断を向上させるための手だて	表現・技能を向上させるための手だて	知識・理解を向上させるための手だて
導入	・情報を読み取り、水産業への関心をもつようにする。 ・資料から日本の漁港や境港漁港などについて情報を得て自分を調べて見たいことを絞るようにする。	・資料や調べた内容から、わが国の水産業について、自分の課題をもつことができる。		・資料からたくさんの事実を引き出し、資料の伝えたいことをくみとることができる。	・わが国が生産量消費量ともに、世界有数の水産国であることがわかる。
展開	・自分の課題について、調べてまとめることができる。 ・調べたことをもとに、水産業に携わる人々の願いについて考えるようにする。 ・水産業について、自分のまとめたことを皆に伝えて、水産業に関してお互いに深め合うことができるようにする。 ・漁業別漁獲高の移り変わりについて考え、漁業の中で育てる漁業が増えていること気付くようにする。 ・水産業のかかわる問題について、自分なりの解決策をもつようにする。	・水産業に携わる人々の工夫や努力について進んで調べたり、まとめたりしようとする。 ・水産業のかかえている課題について自分なりの考えで、今後の展望を見出そうとしている。	・水産業に携わる人々喜びや悩みについて、想像することができる。 ・わが国の水産業の発展のための方針を自分なりに考えることができる。	・インタビューやインターネットを活用して調べることができる。 ・まとめたことを、皆に伝えるように工夫し伝えることができる。 ・資料からたくさんの事実を引き出し、資料の伝えたいことをくみとることができる。	・大量の生産と消費を支える仕組みについて理解している。 ・水産業が抱える資源減少の問題、200 海里規制の問題を理解している。
まとめ	・日本の水産業について関心を深め、明るい展望をもつようにする。	・水産業のかかえている課題について自分なりの考えで、今後の展望を見出そうとしている。	・わが国の水産業の発展のための方針を自分なりに考えることができる。		

様式 4

学校番号 (小10) 学校名 (練馬区立開進第一小学校) 教科名 (算 数)

指 導 の 配 慮 点 (授業規律・発問・板書・個別指導・ノート指導等)		評 価 の 観 点			
		関心・意欲・態度を向上させるための手だて	思考・判断を向上させるための手だて	表現・技能を向上させるための手だて	知識・理解を向上させるための手だて
導入	・(授業規律)チャイム着席ができるように、児童に繰り返し指導をし、学習規律を確立する。 ・(板書)本時の単元名とねらいを板書し、児童に復唱を促し、課題をつかませる。本時の課題は、赤で囲むように板書をし、本時のねらいをはっきりとさせる。	・できるだけ児童の身近な課題から導入する。 ・視聴覚教材の工夫をする。	・前学年で学習したことや、既習事項と結びつけて、考えられるようにする。	・ノートの使用法については、できるだけ丁寧に指導し、基本的な使い方の徹底を図る。	・覚えなければならない知識は、画用紙等にまとめ、いつでも掲示できるようにする。 ・ミニテストを実施し、知識・理解の定着を図る。
展開	・(ノート指導)筆算や立式の書き方を徹底し、わかりやすいノートの使い方を指導する。できるだけ、児童の考えや感想もノートに書かせ主体的な学習に取り組ませる。 ・(板書)前時までの学習や既習事項を提示するようにする。また、筆算の方法が、よくわかるような提示の工夫をする。 ・(個別指導)ＴＴの指導を効果的に実施することにより、個人差に応じた対応の工夫を図る。	・児童の考えのよさを教師が認め、意見を発表しやすくする。 ・机間指導では、ノートのよい部分に印をつける、シールを貼るなどして、個々の意欲を引き出す。 ・自分の考えで、立式をさせたり、その解法を導きさせたりして、主体的に学ぶ意欲をもたせるようにする。	・２位数×１位数、３位数×１位数の計算を、既習の乗法に帰着して考えられるようにする。 ・できるだけ、ノートに自分の考えを整理して書くことを指導し、発表の機会も設ける。	・筆算や立式が、正しく丁寧に書けている児童のノートを、他の児童にも紹介していく。 ・かけ算の筆算形式を、既習事項を確認しながら徹底していく。 ・ＴＴの指導を活用して、できるだけ個別指導をしてゆく。	・学習活動の結果から得た知識や理解したことを、その都度確認するようにする。 ・知識を獲得するためのワークシートやまとめのプリントを工夫していく。
まとめ	・(板書)本時の学習のまとめを掲示し、学級で共有化するようにする。 ・(ノート指導)ノートのまとめには、わかったこと・疑問等、次時につながることをかくようにする。	・簡単な自己評価や友達の相互評価も取り入れ、今日の学習を振り返るようにする。	・考えが出てこない児童には、お金の模型やアレイ図などを示し、結びつけるようにする。	・ミニテストなどを定期的の実施し、繰り返しの指導を徹底する。	・家庭学習が取り組めるように課題を出し、知識・理解の定着を図る。

指導の配慮点 (授業規律・発問・板書・個別指導・ノート指導等)		評価の観点			
		関心・意欲・態度を向上させるための手だて	思考・判断を向上させるための手だて	表現・技能を向上させるための手だて	知識・理解を向上させるための手だて
導入	<授業規律・安全指導> ・理科室内でのルールを毎回確認し、安全に配慮する。(ガラス器具・実験器具等が多いので室内は静かに歩く、喚起の徹底等) <板書> ・本時の単元名とねらいを板書し、一人一人に課題をつかませる。 ・児童の興味・関心を喚起させるような効果的な教材を提示する。	・児童の身近な話題や、メディアでよく知られているような話題から導入する。 ・ビデオ等、視聴覚教材の工夫をする。	・実験で検証していく場合は、その実験が適切かどうか確認し、見通しをもたせる。	・ノートには、課題や予想等を順序正しく書かせ、必要に応じて絵や図も丁寧に書くよう指導する。	・知識として身につけなくてはならない用語や概念については、教科書で赤ラインを入れさせたり、ノートに書かせたりし、定着を図る。
展開	<ノート指導> ・課題に対する予想等、自分の考えを率直に書かせる。必要ならば、絵や図等を用いさせる。(色鉛筆) <板書> ・多様な意見をあげさせ、話し合い活動等をさせた上で、実験等の解決への具体的な方策へ移る。 <安全指導> ・実験に際しては、器具等の取り扱いはもちろんのこと、実験における、予想される危険について具体的に説明し、安全を確保する。 <ノート指導> ・実験等の記録の方法については、ノートの書き方や記録シートへの記述の方法等、あらかじめ確認しておく。	・児童の多様な考えを認める。 ・互いに協力している班を皆にひろうし、手本とさせ、どの班も協力しながら作業を進められるようにする。 ・自分たちで進んで取り組めるように実験方法を工夫させたり、ものづくりをさせたりする。 ・課題を明確にし、活動に取り組ませる。	・実験、観察中には、常に疑問、感想等をその都度メモに残し、後に確認していく習慣を身につけさせる。 ・課題への予想や考えを持つ際には、その根拠となるところを明確にさせる。 ・既習事項をもとに、実験や観察の比較・検討をさせるようにする。	・実験器具を正しく取り扱っている児童やグループを評価し、その良い点をひろうようにする。 ・ノートの記述内容のしっかりしたものを、実物投影機等を活用し皆に見せ、よりよい記録の仕方などを学び合えるようにする。 ・実験器具はできるかぎり、一人一人が操作できるよう指導・配慮する。	・実験結果や観察から得た結果をきちんと知識として定着させるためにノートやワークシートにまとめさせる。 ・実験や観察結果から、必要とされる知識等を得られるように導く。 ・プリント類やテストを行い、知識を獲得させていく。 ・一斉授業の中で、科学用語を復習する時間を設定する。
まとめ	<板書> ・それぞれのグループの結果等をあげさせ、他グループのものと比較検討できるようにする。 <ノート指導> ・ノートには結果のみならず、自分の意見・感想・疑問等について書くようにする。 <評価> ・本時を振りかえることにより、自己評価をしっかりと取り入れる。 <授業構成> ・最後に、今日の課題が解決されたのか、あるいは、次回検討・追求する必要があるのかを確認する。	・自然界の様々な現象を発見する喜びやその素晴らしさを教師も共感するようにする。	・ふり返りの時間を設定し、自己評価や班員との相互評価を行わせる。 ・導き出した結果を、学習課題や課題解決のためにとった方法、その過程における現象と関連づけながらとらえさせるようにする。	・正確に実験を行い、正しい結果が得られたら、そのことを賞賛する。 ・まとめの段階のノートの記述の仕方について、くりかえし指導する。	・まとめを行った後、一人一人のノートを集め、内容を確認し、コメントを添える。 ・よりよいまとめ方をしている児童のノートを紹介し、学習活動を通して知識を身につけられる方法を身につけさせる。 ・復習ができるようなワークシートを用意し、知識・理解の定着を図る。

学校番号 (10)

学校名 (開進第一小学校)

教科名 (生 活)

	指導の配慮点 (授業規律・発問・板書・個別指導・ノート指導等)	評 価 の 観 点		
		関心・意欲・態度を向上させるための手だて	活動や体験についての思考・表現を向上させるための手だて	身近な環境や自分についての気付きを向上させるための手だて
導入	本時の学習の見通しをもつ。 ・活動の見通しがもてるよう、全体を前に集合させ、時間の予定と材料・用具の場所について伝える。 ・どんぐり穴あけ器、きりなど危ない道具は設置したコーナーでのみ使えることを知らせ、使い方や片付け方についての指導をする。	・前時の活動で拾ってきた木の実や本時の製作の参考になりそうな図鑑や絵本などを利用したり、公園などで秋さがしをしている様子を示したりして楽しい雰囲気を作る。	・行動観察・作品を評価する。	・簡単な製作カードを用意しおき、一人一人が活動の中で発見したり、気付いたりしたことを記録しておけるようにする。
展開	自分の拾ってきたものやみんなで使えるコーナーのものを使い、飾るものや遊ぶものを作る。	・3観点にわたり、個別に支援する。 【支援の例】 意欲的でない子・関心がもてない子...気持ちを聞きながら、いっしょに見本のおもちゃで遊んだり、秋の実りの感触を楽しんだりして意欲が高まるようにする。	製作の方法がわからない子...図鑑・絵本コーナーの作品を参考にしたり、友達が製作したのを見たり聞いたりして、作りたいものが決められるように促す。	すぐに製作を終えてしまう子...工夫の視点を示し、さらによいものにするように促したり、新たな作品づくりに取り組むように示唆したりする。
まとめ	自分の作品や作ろうとしているものを紹介する。 本時の活動を振り返る。 ・片付けもみんなのできるよう促す。	・工夫していた子や進んで活動していた子、仲良く活動していた子などを認める。	・活動の楽しさとともに、秋の実りの美しさや友達と関わることから生まれる楽しさにも目が向くように促す。	・製作カードに今日の活動を簡単に振り返り、次回にやりたいことを記録できるようにしておき、活動への意欲が継続できるようにする。